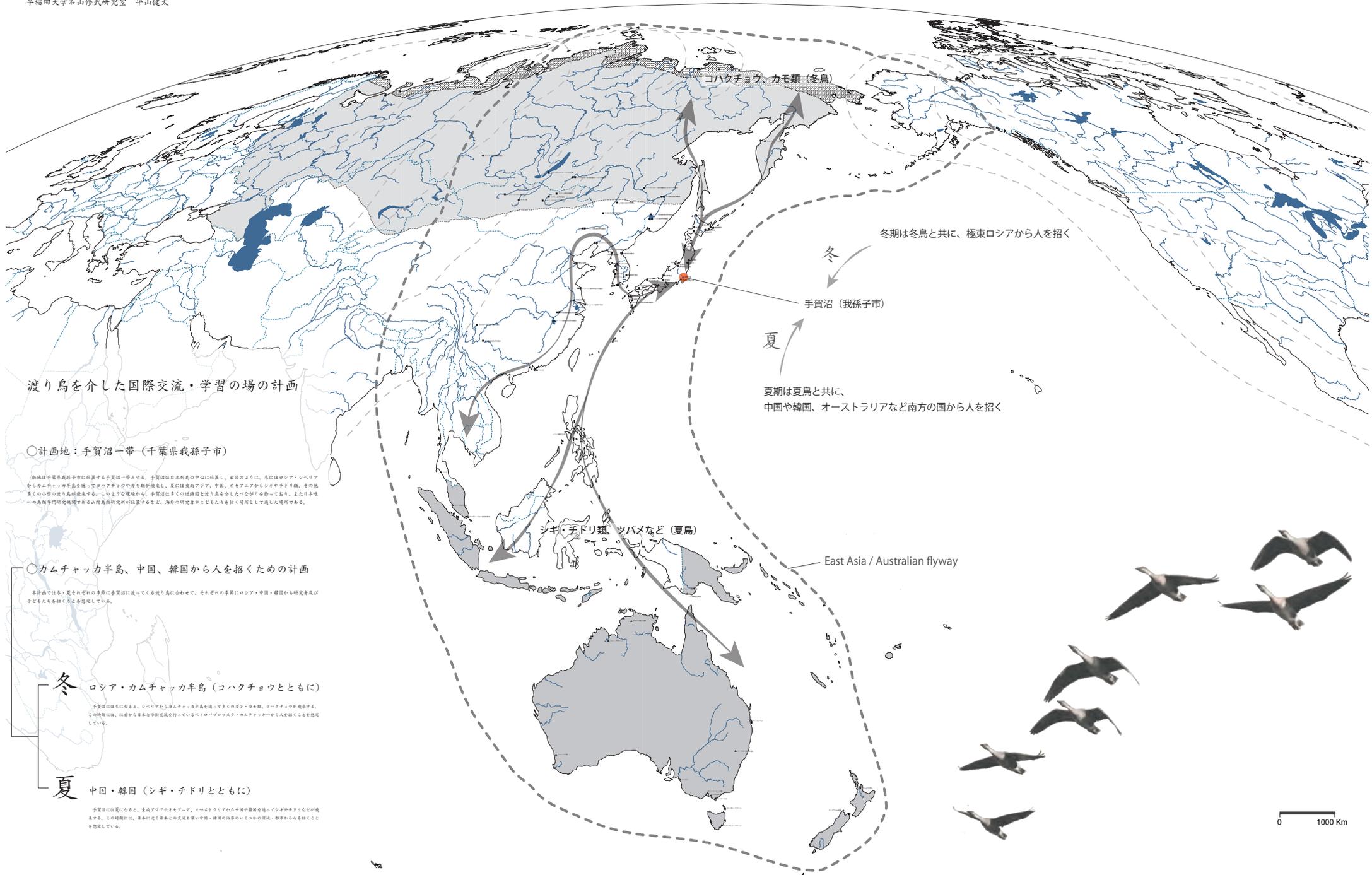
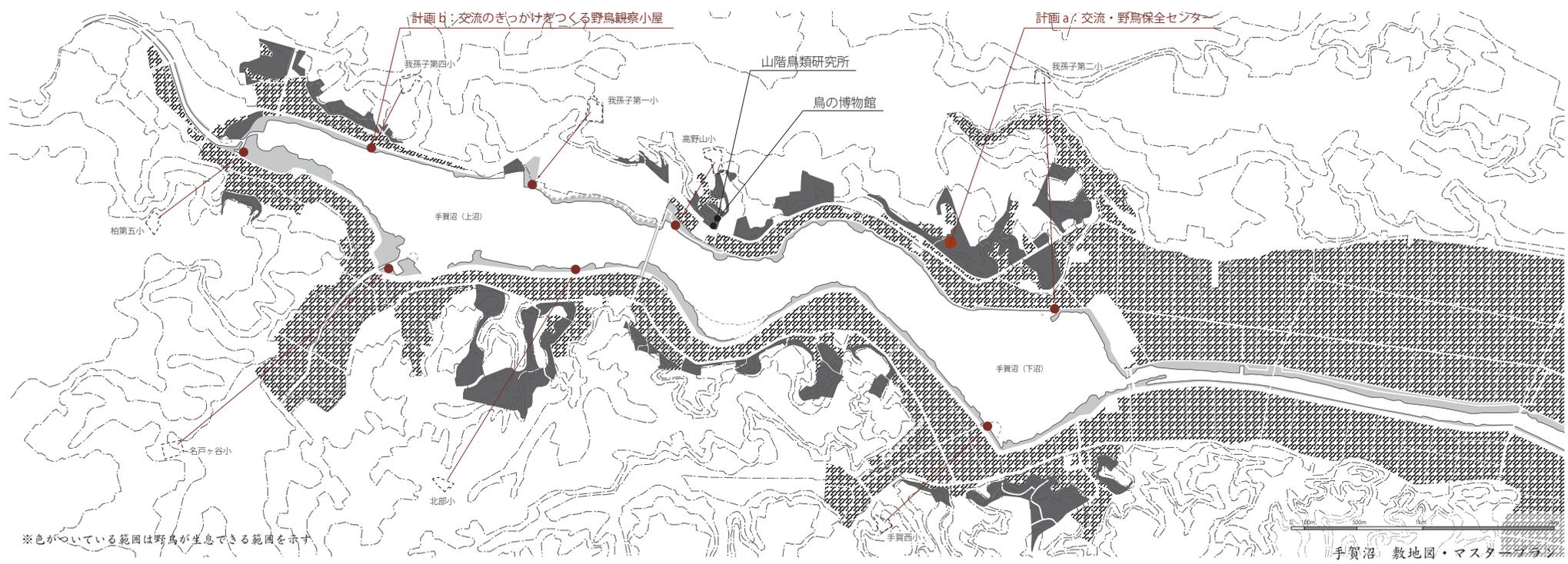


渡り鳥を介した国際交流

早稲田大学石山修武研究室 平山健太



手賀沼で見られる73種の野鳥とその分布（マスタープランの下敷きとして）



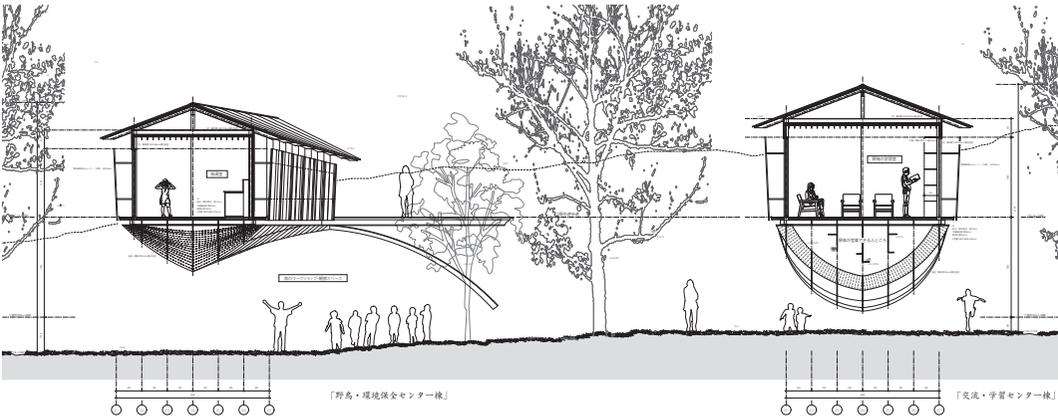
※色がついている範囲は野鳥が生息できる範囲を示す



交流・野鳥保全センター a1' Section

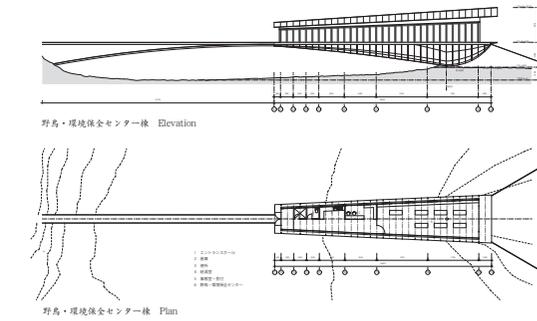


本施設は手賀沼湖畔に位置する日本唯一の鳥類専門研究機関である山形鳥類研究所から、東へ1.5kmの森林公園内に位置する。計画地はかつてまだ沼の面積が広かった頃、実際に位置していた場所である。



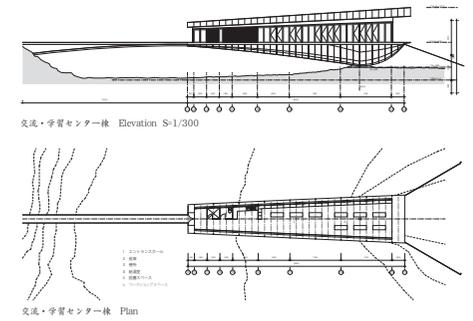
「野鳥・環境保全センター」

「交流・学習センター」



野鳥・環境保全センター 外観

野鳥・環境保全センター 平面



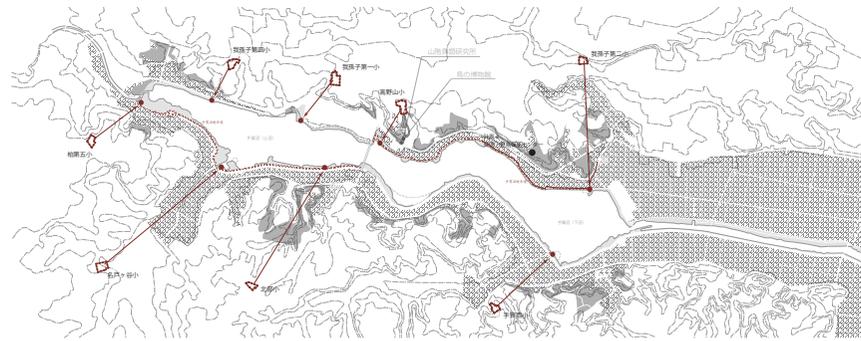
交流・学習センター 外観 S-1/300

交流・学習センター 平面

計画 b: 交流のきっかけをつくる野鳥観察小屋

8つの小屋は各小学校がそれぞれ管理し、それぞれのエリアの水辺環境の保全に責任を持つ

計画として、交流のきっかけをつくる8つの小屋を計画した。手賀沼を取り巻く縁に立地する8つの小学校に、それぞれの観察として、湖岸の観察小屋を与える。また、各小学校はそれぞれの小屋の管理・小屋の周辺の水辺環境の保全に対して責任を持つこととする。この小屋は各学年やここを訪れた地域人が利用する鳥の観察小屋であり、各校の環境保全の拠点となる。毎年、各小学校が受け持つエリアのヨシ刈り国際交流ワークショップの一環として行い、刈り取ったヨシは小屋の外壁に収め、乾燥させる。一本乾燥させたヨシは次の夏、更に蒸気から乾かして小学生らと鳥小屋製作ワークショップの材料として活用する。



手賀沼 8つの小屋と小学校 配置図

8つの小屋の例: 手賀西小が管理・保全する観察小屋 (冬)



毎冬のヨシ刈り国際ワークショップと、ヨシをまとう小屋の姿は冬の風景に

毎年国際ワークショップの一環としてヨシ刈り（水辺の環境保全）を行い、小屋の外壁で乾燥させる
 ⇒ 小屋の断熱材として、更に、一本乾燥させたヨシは夏の鳥小屋製作ワークショップの材料として利用する。